

## 青森県福祉

### オンブズマンネットワーク

#### セミナー2015 開催される！

毎年開催されている青森県内の福祉オンブズマンが一同に会しての、活動交流・研修会が10月27日(土)八戸の仲間の担当で、「もっと知ろう！ 認知症のこと」をテーマに八戸プラザホテルを会場に開催されました。主な内容を紹介します。

- 講演 南部病院院長 金山重明先生  
「もっと知ろう！ 認知症のこと」
- パネルディスカッション  
認知症にどう向き合いか
- パネルディスカッション  
認知症にどう向き合いか  
パネラー 西島 拓(NPO 法人八ネット福祉ワグズマン理事長)  
晴山 奈美キャラバンメイト  
松本 栄子(認知症患者家族)  
千葉マキ子(八ネット福祉ワグズマン副理事長)



セーフティーネットの仲間も全県から16名参加をしました。東青ブロックからは7名の会員が参加をしましたので、簡単に感想を寄稿していただきました。来年度は青森開催でセーフティーネットが担当となります。特に青森市内開催となりますので、東青ブロックの皆さんには格段のご協力をお願いしたいとおもいます。

## 【Nさん】

退職後に同居したお姉さんが認知症になり、介護をすることになったという体験談。そのような状況で、ユーモアの心を忘れず、お姉さんを有りのままに受け入れて暮らしておられるということに敬服です。障がいのある方を有りのままに受け入れ、安心して介護できるような社会でなければと思う。生活環境が認知症の進行を遅らせるとか、認知症により失われたと思っていた機能が生活しているうち回復したと思われるようなことも起こっている・・・、そんな映画があったのを思い出しました。

## 【Fさん】

- ・施設職員、認知症患者の家族、ワグズマン、立場の違う三者で、パネルディスカッションをしたのでよかったと思います。
- ・オンブズマン同士で交流する場面もあっていいのかなと思いました。

## 【Tさん】

講演「もっと知ろう！ 認知症のこと」  
巷では認知症は治る、治らないと話題になりますが、高齢になると年だから仕方がないとあきらめてしまう方が多いように思われます。しかし、講演では治る認知症と、治らない認知症の違いを教えていただきました。また「認知症のひととのコミュニケーションのポイント」では、施設に訪問した際に自身では気をつけているつもりでしたが、欠けていた点が今更ながらに浮き彫りになったような気がしました。なかでも同情 sympathy ではなく、共感 empathy ということ。もう一度振り返ってみる良い課題を与えていただいたように思いました。パネルディスカッションでは家族、施設職員、オンブズマンそれぞれの立場から忌憚のない意見を伺うことができ、痛快でもあり考えさせられることばかりでした。今後は自分の立ち位置を再確認して、オンブズマン活動に活かしていきたいと思います。今回のセミナーの課題ということではありませんが、現在気になっているのは、障がい者差別解消法。合理的配慮についての実態や、みんな(障がい当事者、健常者、社会、行政、企業)の気持ちはどんな方向に向かっているのだろうかということです。



## 【Gさん】

「もっと知ろう！ 認知症のこと」と題し、講演とパネルディスカッションでした。講演ではその認知症の理解や認知症の症状等の内容でした。認知症の表情の一つに「遂行機能障害」というのがあり、その具体的な症状として 普段していた料理が出来なくなった、料理の味も変わった、洗濯機や電子レンジが使えなくなった等が挙げられる。家族としては一番気づきやすいところだと思います。自分にも起こりうるかもしれない認知症のことを学び、その後は「認知症にどのように向き合いか」のテーマでパネルディスカッションが行われました。参加者は認知症の姉をグループホームへ入所させたご家族とキャラバンメイト、オンブズマン。ご家族は施設に遠慮があり言えない事があるとのこと。どこの施設でも特に入所施設に多いように思います。オンブズマンとして訪問した際に感じたことは、先入観を持たず職員にそのまま伝える。また利用者様の変化を見逃さないようにすることが必要だと感じました。利用者のご家族へのアンケートも、何を感じているのか、何を悩んでいるのか等を把握するために良いのではないのでしょうか。10年も経過するとほとんどの方が寝たきりになってしまうということが言われていますが、我々オンブズマンが「そよ風」となり、その人たちの施設での生活が改善され、寝たきりにならずに生活できるように努力したいと思えます。

